

沖退教だより

第28号

連帯 平和 親睦

沖縄県退職教職員会
会長 仲村勝彦

〒900-0015

那覇市久茂地3-9-23

教育会館内

☎ (098) 867-0161 (代)

FAX 098-863-2026

古野 辺 今年が正念場 沖縄の今後を大きく左右

新年明けましておめでとう
ございます。今年が会員の皆
さん並びにご家族の皆さんに
とって良い年になりますよう
にお祈りいたします。

昨年も沖縄県民にとっては
厳しい年でした。6月の県議
会議員選挙や7月の参議院議
員選挙では、辺野古新基地建
設・高江ヘリパッド建設に反
対し、翁長知事を支える候補
者が勝利し、沖縄県民の民意
が明確に示されたにもかかわ
らず、日米政府はこの民意を
完全に無視し、高江では県外
から500人の機動隊を動員
し反対する市民を暴力的に排
除して工事を強行しました。

年頭の挨拶

高江での工事強行はまさに
法律をも無視した異常なもの
でした。警察による工事人運
搬、工事優先の為の車両検
問・通行止めによる交通マヒ、
自衛隊ヘリによる機材搬入、
工事計画の勝手な変更、制限
無視の樹木伐採、人権無視の
不当逮捕者の続出等常軌を逸
したものでした。

私達は「欠陥機オスプレイ
は必ず墜落する」と沖縄配備
に反対してきました。その心
配が的中しました。12月1
3日にオスプレイが名護市安
部海岸に墜落し大破しました。
ここでも日米政府の醜さ・国
民騙しが露呈しました。残骸
の写真を見れば誰もが不時着
ではなく墜落だと分かるのに。

事故原因が明らかにされない
ままオスプレイは飛行を再開
し、空中給油訓練も行われて
います。

今月から辺野古の工事が再
開されます。新基地問題は今
年が最後の正念場と言っても
いいでしょう。毎日500人
がゲート前に結集すれば工事
を阻止することができると言
われています。これまでの私
達の闘いを無にしない為にも
出来るだけ多くの県民が結集
し新基地を阻止していきま
しょう。

女性部 新春の集い

日 時：2月8日(水)
受付：11:30~
開場：12:00~
場所：八汐荘
電話：098-867-1760
会費：1500円

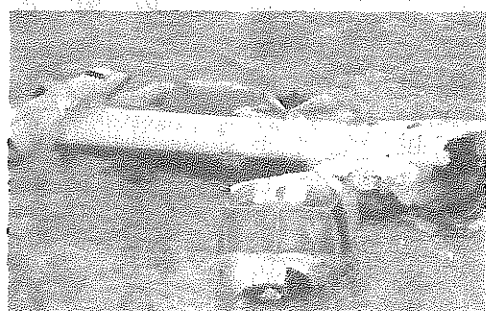
辺野古近海 オスプレイ 墜落 予見が的中

昨年末の12月13日、辺野古からそう遠くない名護市安部の海岸にオスプレイが墜落し大破しました。県民は開発段階からたびたび墜落事故を起こしているオスプレイは欠陥機だとして沖縄への配備に強く反対してきました。2012年の9月9日には宜野湾海浜公園で10万1千人が参加する県民大会をもちました。

9月27日〜30日にかけて普天間基地ゲートを封鎖する行動も取りました。しかし、日米政府は県民の声を無視して、10月1日にオスプレイ

を強行配備しました。「オスプレイは必ず落ちる」と県民が危惧していたことが現実のものとなりました。

22日には「欠陥機オスプレイ撤去を求める緊急抗議集会」が名護市の21世紀の森屋内運動場で開かれ、4200人が駆けつけました。この日は政府による米軍北部訓練場の過半の返還式も同じ名護市内で開催されましたが、翁長知事は式典には参加せず抗議集会に参加し、「辺野古新基地を造らせないよう頑張ろう」



墜落し、大破したオスプレイ

と呼びかけました。

米軍は、事故後2週間もたたないうちにオスプレイの飛行を再開しています。米軍トップの居丈高な発言からは、同じような事故がまたも起こる可能性は大です。案の定今月20日には伊計島に別のヘリが不時着しています。今後ともオスプレイ撤回・全基地撤去を求めて声を上げ続けましょう。

全国アクション 東京集会に 本会も参加

基地の県内移設に反対する県民会議／「止めよう！辺野古埋立て」国会包囲実行委員会／戦争をさせない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会 の3者が主催する「12・10全国アクション・東

京集会」が去る12月10日に日比谷野外音楽堂で開催されました。

沖縄教と高退教は、沖縄の為に立ちあがっている全国の心ある仲間たちと行動を共にして連帯の絆を深めていくべく両退教の事務局長が参加しました。当日は気温が5度、強い風が吹き抜ける中3900人が結集しました。

集会終了後は、日教組の宣伝カーを先頭に日退教・日教組・沖縄教・高退教ののぼりを共に立て、デモ行進をしました。



日比谷音楽堂に立つ沖縄教のぼり

辺野古

作業を再開

全力で止めよう

昨年3月の裁判所からの和解勧告を受け、辺野古での作業は中断されました。日米政府はこの間を利用して高江でのヘリパッド建設を強行しました。県外から500人もの機動隊を動員し、反対・抗議をする市民を暴力的に強制排除し多くの救急搬送者を出し、運動の中心となっている人たちを次々と不当逮捕していきま

ました。
12月22日を「返還式典」の日とあらかじめ設定し、式典までに何とか「完成」の形を整えようと「突貫工事」ですすめられた為、かなりさまざまな工事になっています。そのひずみが今後出てくるでしょう。

年が明けて、高江から辺野古へと闘いの中心が移りました。政府は海上での作業を再開させ、フロート設置に取りかかっています。17日には大型クレーン車等を搬入し、その際機動隊が座り込みをする市民をこぼり抜きし強制排除しました。



工専用ゲート前で座り込む参加者

いよいよ工事が本格化してきます。沖縄を未来永劫に軍事基地の島にしてしまう耐用年数200年の新たな巨大軍事基地を作らせてはなりません。1月5日からシュワブ・ゲート前での座り込み行動が始まっています。可能な限り辺野古に足を運び、新基地を阻止していきましょう。



ゲート前では歌声も響く

日退教 第7次沖縄交流

台風接近の中

日退教の第7次沖縄交流(その2)が10月2日(3日の予定でもたれました。大

型台風接近ということもあって、1日目の日程はこなせたものの、2日目はバスも運航しない為辺野古・高江での行動は断念せざるをえませんでした。

1日目は開会行事と合同学習会を行い、日退教・大阪府退教からカンパの手交がありました。合同学習会には日退教から26人、沖縄側から16人の計42人が参加しました。講師に辺野古の闘いの中心的役割を担っている真喜志好一さんをお招きし、辺野古・高江の状況を話してもらいました。



台風接近の中行われた日退教の沖縄交流

日退教組織活動交流集会

沖縄から特別報告

高江・辺野古の状況で

日退教の第22回組織活動交流集会が昨年10月13日に東京のラポール日教済で開催されました。日退教からの特別報告の依頼を受け、沖退教中頭支部の仲宗根寛勇副会長が報告することになりました。

仲宗根さんは、日退教がこの間沖縄の闘いに積極的に取り組んでもらっていることへのお礼を述べた後に、新聞切り抜きなどの資料を示しながら、特に高江での安倍政権による民意無視、暴力的弾圧、人権無視の不当逮捕、樹木の伐採による環境破壊、自衛隊ヘリの工事への投入等法律をも無視してのやりたい放題の

工事強行の実態を明らかにしました。

また、日米軍事同盟を強化し、戦争への道を突き進む安倍政権のもとでは、沖縄の問題は決して沖縄だけの問題ではなく日本全体のものとして考えなければならぬと訴え、これからも日退教として辺野古・高江問題に力をかけてほしいと呼びかけました。

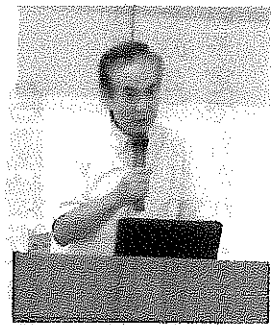


特別報告をする
仲宗根寛勇さん

16年度・第22
本退聯

年金・介護で学習

講師は竹田さん



昨年10月26日、沖退教と高退教は共催による年金・介護に関する学習会を教育福祉会館で開催し、35人が参加しました。会員からの要望を受けての開催でした。日退教の竹田邦明事務局長が多忙な中にもかかわらず講師を快く引き受け、「どうなる年金・介護」と題して話をしました。竹田さんは、「少子高齢化社会のすがた」「社会保障制度と税の一体改革」「年金保険はどうなる」「介護保険制度はどうなる」「マイナンバー制度と社会保障」を柱に、詳しい資料を示して話をしてくれました。

高齢者集会参加

報告者 宮城玲子

昨年9月27日の地公3単産、地公高齢者集会には700人余の仲間が日本教育会館に結集し、成功裏に開催されました。主催者代表による「今こそ団結が大事だ」との力強い挨拶があり、基調報告では「社会保障と税の一体改革」「安心・信頼できる公的年金制度の確立を」「子どもたちに豊かな学びや育ちの保障を」等が取り上げられました。2日目の全国高齢者集会には、全国から2000人余の参加がありました。基調報告では「将来の希望を奪うアベノミクス」「先細りさせられる社会保障制度」等が取り上げられ、集会終了後は都内をデモ行進し都民にアピールをしました。